



東 豊

平成29年7月21日
第418号
新発田市立東豊小学校

ホームページ <http://toho.shibata.ed.jp>

体験活動で充実した「夏休み」を！

校長 高橋 祐二

蒸し暑い中、汗を流し学習に取り組んでいる子どもたち・・・
75日間の1学期が終了します。運動会に代表されるように、子どもたちは、みんなで力を合わせ、一生懸命、学習や行事に取り組みました。ひまわりが、陽に向かって成長するがごとく、一人一人の子どもたちが目標に向かって成長する姿が目に残ります。

さて、子どもたちにとって、とても楽しみにしている「夏休み」が始まります。事故やけががなく、充実した「夏休み」になることを願っています。

私ごとで恐縮ですが、私にとっても、小学生時代の「夏休み」は、一生忘れることのできない思い出として残っています。

私の家庭は、父母とも共稼ぎでした。父親は、運送関係の仕事。母親は、近くのパン工場に勤務していました。日曜日も、両親とも仕事に出かける時があったので、家族で旅行に出かけたり食事に出かけたりした記憶は、ほとんどありません。

でも、私は、寂しいとか家族で旅行に出かける人たちを羨ましいと思ったことは一度もありませんでした。

何故かと言えば、「夏休み」になれば、仲間とたくさん遊べること。そして、地域のお兄さん、お姉さんたちが一緒に遊んでくれたからです。

ある日は、早朝、仲間と近くの山にカブトムシを捕まえにいきました。足で、木をバンバンたたくと、カブトムシが一匹、二匹と木から落ちてきました。虫かごに入れ、ラジオ体操に行き、自慢したことを覚えています。

また、ある日は、近くの川に水かさが減ると、近所のお兄さんたちと魚捕りに行きました。石の下にいる魚を手で捕まえると、思わず、「捕ったど～」と歓喜の声をあげました。そして、お兄さんたちから、「祐ちゃん、やるな～」と誉めてもらい、とても嬉しかったことが、セピア色の思い出として蘇ってきます。

私にとって、多くの仲間や地域の方とかかわった体験や自然の中での体験活動は、何ものにも代えられない貴重な体験となっています。常日頃から、東豊の子どもたちにも、たっぷりと体験させたいと考えているところです。

しかし、現代の自然や生活環境が激変している中で、私の子どもの頃と同じ体験を子どもたちにさせたいと考えても難しいことでしょう。交通事故、水や火の事故、不審者の事故等々のリスクが高過ぎます。危険を承知して、奨励することができません。

そこで、保護者や地域の皆様にお願いがあります。学校では、なかなか出来ない体験を是非とも、「夏休み」に体験させて欲しいと願っています。

例えば、地域のお祭りや行事へ積極的に参加する。海や山でのアウトドア体験をしてみる。畑仕事などの勤労体験をさせてみる。夜、星座を観察してみる。等々・・・

「人とのかかわり」「自然」をキーワードに是非とも体験して欲しいと願っています。

そのために、子どもに活動してみたいことを聞いてみる、企画し奨励してみる、参加させてみる、見守ったり一緒に活動したりしてみる。多くの大人のサポートを期待します。

1学期、保護者や地域の皆様には、大変、お力添えをいただきました。心から感謝申し上げます。2学期も、学校、家庭、地域の「つながり」を大切にしていきます。

子どもたちが、2学期、真っ黒に日焼けし、充実した顔で登校することを願っています。